

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年11月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104175
法人名	有限会社 渡辺
事業所名	グループホーム ひかりの丘
所在地	鹿児島県鹿児島市西坂元町6番4号1 (電話) 099-248-1116
自己評価作成日	平成28年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

☆ 「一期一会」皆様との出会いのご縁を大切に、その人のいつもの生活、いつもの趣味、いつもの食事など、可能な限り自立した日常生活が送れるように支援し、安心と尊厳ある生活のお手伝いをさせていただきます。
 ☆ 季節感のある、美味しい食事の提供をします。
 ☆ 「いつもそばにいますよ」という寄り添いケアを実施します。
 ☆ 利用者様お一人おひとりの特質を尊重し、自己決定を中心に長いお付き合いを大切にします。
 ☆ 地域交流と社会資源の活用による地域に根差した環境づくりに努めます。
 ☆ 馴染みの職員による継続された介護の提供で、住み慣れた場所で、最後の日まで尊厳をもって暮らし、その生涯を通じて”その人らしい存在”であり続けることを支えるために当事業所は努力します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、隣接して同系列のデイサービスや介護付き有料老人ホームなどの事業所があり、相互協力体制が構築されている。民家も多くふれあいながら生活できる環境にある。
- ・理念を大切に「一期一会」をモットーに職員が協力して利用者の気持ちに寄り添い、サービスを提供できるように努めており、家族からも信頼されている。
- ・町内会に加入し、地域行事に参加する一方、事業所の行事にも地域の人々が参加している。認知症についての相談も受けるなど、積極的に地域交流を進めている。
- ・運営推進会議での助言や意見で、水路の整備や外灯の設置など安全な暮らしに反映させている。
- ・代表者や管理者は職員が働きやすい環境作りに配慮し、職員育成にも力を入れ、資格取得に向けた支援を行っている。職員は勤務年数も長く離職者も少なくチームワークも良い。自らのグレードアップを目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業者理念に基づき、運営推進委員、近隣の方々の協力を得ながら、事業の理解と共有を図り、地域の中の事業所の定着化を図る。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念で、事業所内の玄関に掲示しパンフレットにも掲載している。職員会議やミーティング等で、理念を掘り下げて話し合い、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域資源の活用、地域行事の参加を行うとともに、災害の場合の避難所としても活用してもらうための努力、貢献を目指す。	町内会に加入し、回覧板等で地域と情報を共有している。餅つき大会などの地域行事や清掃活動に参加している。秋祭りなどホームの行事に地域住民の参加があり、ボランティアの受け入れなども行っている。認知症についての相談を受けるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	定期的な近隣の清掃に参加し、認知症介護についての理解、相談に積極的に行っている。又、積極的に地域行事に参加し、住宅地にある関係からも、近隣関係の構築を重視している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回開催し、サービス提供の実情報告を行い、意見をお聞きし、指導を頂き、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>会議は定期的に行っている。事業所の状況や年度目標・ヒヤリハット・外部評価結果報告などを行っている。参加者からも多くの助言や提案が出され、そこでの提案で水路の補修や外灯設置等、サービス向上に活かされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>長寿あんしん相談センターの職員の方々との意見交換、情報交換を密にとり、市窓口（長寿支援課）の指導を頂き、訪問時に相談を行うなどしている。</p>	<p>市担当者には、日頃から電話や窓口に出向き相談や情報を交換して助言を貰っている。介護相談員も受け入れ、市主催の研修会にも積極的に参加している。生活保護の担当者とも密に連絡し合っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>厚生労働省が定める「身体拘束ゼロの手引き」を参照に、施設内研修の実施、外部研修を取入れ、介護の実践に取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルを作成し全体会議の時、身体拘束や虐待について事例をあげて研修したり、講師を依頼して勉強会を開催し、外部研修にも参加して、禁止の対象となる具体的な行為を理解し、職員で共通認識を図っている。言葉による拘束についても日々確認し配慮している。日中の玄関の施錠はせず、外出しそうな様子を察知したら、見守りやドライブなど職員間の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づき、定期的研修を行っている。 車いすに、タオルを巻き皮膚剥離防止を行う場合でも、家族に相談し、いかなる時も拘束に繋がらないよう職員とケア会議を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については、入社時にオリエンテーションの一環として研修を行うとともに、制度の理解と実践は外部評価、内部研修などで、必要性を話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては、入居前若しくは入居当日に、契約を行う際、重要事項説明書にのっとり、説明、運営規定の理解を行っている。解約、改訂の関しても、理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族との随時面談、ケア会議、ご家族参加の運営推進会議など、意見、要望などを取り入れ、運営に反映させている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、市相談員からの意見も参考にしている。家族からは面会や家族会・電話・運営推進会議等で意見を聞いている。2ヶ月に1回は写真入りの便りや状況報告を送付している。出された要望で晩酌の習慣を取り入れたり、希望者にはイベントの時にノンアルコールを出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議は定例で、管理者が行っているが、代表者は随時で参加、又は個人面談など行い、職員の意見を聞いている。業務会議、リーダー会議も行って意見交換の場としている。</p>	<p>代表者や管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、ケア会議や職員会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。ケアに関する意見が多く全員で検討して、反映を図るよう心がけている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、職員の個々の資格や家庭環境を考慮し、給与決定、昇給、勤務形態、処遇条件などを図っている。処遇改善交付金については、年2回の交付としている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>市町村、社会福祉協議会、介護労働安定センター等の主催する研修会に参加し、その内容を職員で共有すると共に、さらに上を目指すための資格取得を推進している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の加入により、ネットワークの構築、研修会を通じての情報の収集、施設間相互関係の構築を図り、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、居宅、医療機関からの情報提供書による把握を行うとともに、ご家族との密な面談を行い、要望希望の確保に努め、利用者の安心安全の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階より、家族、本人の思いを聞き取り、継続した介護ができるようにケアプランを立案し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としているニーズを把握し、必要な支援の選定、家族の了解の上で、フォーマル、インフォーマルな支援の協議、他のサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	潜在能力、残存機能を導き出せる支援の選定、日常生活の中での本人のできる役割の発見に努め、相互関係のもとで生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ケアプランの内容に家族の位置付けを明確にし、サービスの輪の中に取り入れ、毎月の通信文（ひかり通信）を通じ、遠方の方にも本人の現況報告をして、情報の共有化を図っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>生活歴を把握し、その内容をケアプランに反映させると共に、家族、友人、知人の訪問、馴染みの場所への外出支援に取り組んでいる。</p>	<p>馴染みの場所にドライブを兼ねて出かけたり、親戚や友人・知人の訪問の際にはお茶を出すなどして継続的關係が途切れないよう働きかけている。電話の取次ぎなども行っている。家族の協力で買い物や外食・墓参などの支援をしている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個別的援助の中で、役割分担、利用者同士の関係構築のため、レクリエーション等でコミュニケーションが取れるよう、職員が間に入り、相互間の円滑な交流が図れるように支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス相談窓口として、管理者が退居後も積極的に相談、支援を行える体制をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアマネジメントの基本である『利用者本位』を遵守したケアプラン作成に努めている。また、アセスメント実施時には、希望や意向を本人若しくは代弁者として把握に努めている。	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族や関係者からも情報を得、居室でゆっくり話を聴いて利用者の視点に立って職員で話し合い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族との面談、情報提供書などを参考に、生活や今までの暮らしの実態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にケースカンファレンスを開催し、生活全般の課題や本人の有する能力の把握、共有化を行い、心身の変化時も早急に対応、支援できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または随時のアセスメントにおいて、本人・家族のニーズの抽出、意見の傾聴に努め、各種専門等からの助言を受けながら、チームケアで、サービスの在り方、生活目標を立案、作成に努めている。	本人や家族・必要な関係者・医師の意見を聞き、職員間で話し合い個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録簿・医療連系報告書等に、日々の記録、その他必要とする情報を記録している。その情報をもとにケアカンファレンスを実施し、情報の共有や介護方法、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人等を取り巻く環境の変化や多様化するニーズについては、随時相談を受け、社会資源の促進、サービスの共用化を図り、多岐にわたるサービスの紹介、提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所として地域密着を重視し、地域資源の活用又、事業自体を地域資源と捉え、本人が心身ともに安全で豊かな暮らしが営めるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の医療機関と協力医療機関契約をしておき、希望選択、若しくは希望の病院受診を行い、適切な医療行為が受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医で受診している。協力医療機関からの2週間に1回の往診や歯科医の訪問診療もある。看護師職員在勤などで健康管理も密に行われ、緊急時の対応などに連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所は看護師を配置し、心身状態把握、急な変化にすぐ対応できるようにしている。病院受診時にもなるべく付き添うようにし、主治医との連携、指導を仰ぎながら、必要かつ適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所と入院先医療機関等において、情報を共有できるよう看介護サマリーを作成し、提供している。また、入院先を定期的に訪問し、主治医や看護師より情報提供を受けている。急性期から状態が安定期になり、通院等が可能な場合は、退院支援をおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所においては、終末期の看取り介護に取り組んでおり、入居当初より、本人及び家族の重度化した場合及び、終末期に対する考え方やの確認を行い、段階に応じた医療支援や介護支援が行えるよう、主治医を含めた家族、関係機関との連携を行っている。	契約時に重度化に伴う対応の指針を説明し同意書を貰っている。状況変化に伴い本人や家族の意向を確認し、看取り希望の場合は医師に職員が連携を取り、家族と方向性を共有できるように取り組んでいる。職員は関連の勉強会や講習会に参加し研鑽している。看取りの事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師による初期対応及び、応急手当の講習、消防署職員による蘇生法講習を定期的に受け、実践力の向上に努めるとともに、緊急時マニュアルを作成、緊急時の連絡網も整備している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>鹿児島市が定める非常災害対策を基にマニュアルを作成。年に2回の避難訓練及び、消火訓練を実施している。また、近隣住民との協力体制を整備している。</p>	<p>消防署立会いのもと年1回と自主訓練を年1回、昼夜想定での避難訓練を実施している。スプリンクラーや緊急通報装置を設置し、隣接する同系列の事業所との協力体制もできている。地域の見守りや協力もある。今後、運営推進会議の参加者も予定している。災害時の水や米・缶詰・乾パン・カップラーメンなど備蓄がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>当事業所の運営方針で、「住み慣れた場所で、最後の日まで尊厳をもって暮らし、その生涯を通じて”人間らしい存在”であることを支えるために介護者が存在します」を実践している</p>	<p>マニュアルに沿って人格の尊重とプライバシーについてケア会議や職員会議で研修している。名前の呼びかけや言葉かけ・トイレ誘導等、プライバシーを傷つけないよう配慮している。職員がその場でお互いに気づきを確認できるコミュニケーションが図られている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者の話を傾聴すると共に、自己決定の尊重に努め、生活習慣、宗教等、本人が大切にしている生活習慣を日常に反映できるよう代弁者となり支援に努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その人らしく可能な限り自立した日常生活を送れるよう、計画作成担当者が作成する日課を、その時の状態に応じて支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>日々の更衣に関しては、可能な限り自己選択して頂き、できない方は、生活歴を反映した衣類を選択し、身だしなみと動きやすさを優先して配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>栄養士が実施する嗜好調査の実施に基づき、メニューを決定。咀嚼、嚥下状態に合わせた食事形態による食事の提供に努めている。また、季節や行事食の提供、片付けの共同作業にも務めている。</p>	<p>法人の栄養士が利用者の嗜好に配慮した献立を作り、食事形態を工夫している。利用者の力量に応じて準備や片づけを職員と一緒にやっている。誕生日にはケーキ作りをし、正月のおせち料理や季節の行事食で食事が楽しみなものになるよう工夫している。外食も家族や職員と出かけ食事を楽しむ支援をしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>罹患している疾病やアレルギー等に配慮し、1日1,200k Calを目安に食事を提供。必要に応じて主治医から指示があった場合は特別食を準備している。食事・水分摂取量は記録管理し、補食の提供に努めている。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、能力に応じた口腔ケアの実施、口腔内の状態に合わせた物品の使用を行っている。概ね年1回の口腔内検診の機会を設けている。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の生活パターンやしぐさをキャッチし随時のトイレ誘導。夜間帯においても睡眠を妨げない範囲で排泄支援実施。排泄用品の使用も一人ひとりの意思を尊重したケア用品等を使用している。	排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけをしてトイレでの排泄や排泄の自立を支援している。羞恥心やプライバシーに配慮しながら支援している。夜間帯においては睡眠を妨げない範囲で、一人ひとりの意志に沿った支援をしている。排泄用品は身体機能に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の記録管理を行い、必要に応じて緩下剤の服用を行い、定期排便ができるように支援している。また、罹患している疾病の関係性を考慮し、食事内容、水分摂取量を検討している。レクの一環で軽い運動、体操を行い、自然排泄が望めるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	原則週3回の入浴の機会を設けている。出来る限り、本人の要望の入浴方法、時間の配慮。季節に応じた入浴を実施し、入浴を楽しみの一つとしている	入浴は基本的に週2回であるが、個々人の体調や希望にそって柔軟に対応している。浴槽も適度な広さで入浴しやすく工夫されている。入浴を拒む利用者には声かけや時間調整など職員間で連携したり、家族から声かけをしてもらったりして状況改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	生活習慣の把握による日課の作 成で日常生活を支援。また、そ の日の体調や感じた思いに添っ た支援を行い、自由に過ごして いただけるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導 を受け、専門的アドバイスの基 に、服薬支援を実施している。 事業所における服薬管理責任者 は看護師であり、連携に努めて いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活暦 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている	事業所で企画、実施するレクの 他、外部ボランティアによる慰 問、趣味や生きがいを考慮した 活動の実施の他、一人ひとりが 有する能力を生かした役割を 担って頂き、日常生活を楽しん でいただけるよう支援に努めて いる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>外出支援は個人を対象に随時で対応する他、季節行事として地域の行事参加、家族との外出についても、随時で対応し、必要時は送迎も実施している。</p>	<p>日常的にはホームの周辺を散歩し、花壇の花を観て楽しんだり、個々人の希望に沿って本や日用品などの買い物に個別に対応している。年間計画を立て、初詣や花見・花火大会にも出かけている。家族の協力で外出や外食・墓参などにも送迎をするなど支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の了解のもと、自己管理によるお小遣い等の所持を推奨しているが、必要に応じ、ホーム立替で買い物と一緒に外出支援も行っている。また、本人が管理している金銭については、家族面会時に随時確認を行ってもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族、地域の友人等と制限のない限り、電話の取次ぎ、レクで絵手紙の作成、ポスト投函し手紙のやり取り支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快や混乱が生じない程度の飾り付けを行い、季節感を大切に花、絵画の工夫を行っている。騒音についても、周囲の音に配慮し、静かに過ごしていただけるよう工夫している。</p>	<p>共用空間は広々として、採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。台所は対面式で利用者の動きがよく見える。ユニット毎に壁紙やドアにアクセントがあり、あたたかい雰囲気である。花や絵画も季節感を大事にした飾りである。ソファも置かれ広い窓から風景や家並みを楽しみながら居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限られた空間であるが、その日、その時に過ごしたい場所でゆっくりとくつろいでいただけるよう、空間の確保に努めている。また、馴染みの利用者としてゆっくりと過ごしていただけるよう工夫に努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>過剰な装飾を避けながら、自室内においては、自宅生活時に使用していた家具や、自身で制作した作品や家族の写真の掲示等思い思いの自室作りが家族と一緒にできるよう支援している。</p>	<p>居室はベッドやタンス・エアコン・温度計が設置され、寝具はリースである。テレビや衣装ケース・位牌・写真・ぬいぐるみ・花など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの有する能力を最大限に活用し、建物内で安心安全にできること、わかることをモットーに個々の役割を担っていただけるよう環境整備に努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない